

API 500 Series EQ Collection

イントロダクション

550Aと560モジュラー EQは、これまでで最も人気のあった不朽のミックス&トラックリングプロセッサの幾つかです。APIの500シリーズ・モジュールは、プロジェクトスタジオでプロフェッショナルなマルチトラックコンソールを控えめにランチボックス・ラックに収めた業界のスタンダードです。60年代後半に今や伝説となったSaul Walkerによって設計されたWalkerの2520オペアンプと彼のプロポーションナル Qサーキットの組合せにより550と560に音響的に優れたイコライゼーションを生み出す複雑ではない方法を与えました。Universal Audioは、これら2つのオーディオプロダクションにおける主要機材をUAD-2プラットフォーム上でクラス最高のエミュレーションを行いました。フィルターシェイプや、バンドインタラクション、ユニークなフィルターアンプのクリッピング特性など“すべての動作”をこのプラグインはキャプチャーし、以前は唯一APIのハードウェアのみが提供できたサウンドの要件を満たしています。両方のプラグインは、時代特有の機能や動作、及びAPIのカスタム2520や出力トランスの詳細なモデリングは、Ross HogarthとCapitol Studioによって提供されたビンテージユニットに基づいて行われました。その結果は、素晴らしい低域のクリアさとAPIの代名詞とも言える“パンチのある”タイトなイメージです。ハードウェアと同じようにEQは非常に素早く設定することができ、信頼性の高い、均一でオンリーワンのAPIの高いヘッドルーム精度を実現しています。伝統的なアメリカの音楽のサウンドが欲しかった場合、APIのEQが必ず必要となります。

API 500 Series EQ Collection スクリーンショット



Figure 5. API 550A EQ (左)、API 560 EQ (右) プラグインウィンドウ

操作方法について

- API 500 シリーズ コレクション** API 500シリーズには、Automated Processes Inc より正式にライセンス、エンドースを受けたUAD API 550A とUAD API 560 プラグインを収録しています。両方のプラグインは、カスタムAPI2520オペアンプ、トランス、バンドインタラクションや内部クリッピングフィルターの非線形に至るまでモデル全体の電子回路を忠実に再現しました。
- API 550A** API550Aは、レシプロ・イコライゼーションを提供し、15ポイントを5ステップで設定し、各ポイントのゲインを最大で±12dBブースト/カットすることができます。15個の固定イコライゼーション・ポイントは、3つの重なり合うバンドレンジに分けられています。高域、低域は個別にピーキング、シェルビング・フィルターとして動作するように設定することが可能です。
- API 560** シグナルを艶やかにし、ミックスを行うため560の10個のプレジジョンEQバンドは最適です。ブーストとカットの特徴は同様です。必要に応じて前述したように動作します。
- プロポーションアルQ** 550Aと560は、バンドゲインを増やすとフィルターの帯域幅を連続的に狭くするAPIの“プロポーションアルQ”を特徴としています。そして(APIによって述べられているように)音響的に優れたイコライゼーションを提供します。
- アーティストプリセット** API500シリーズのEQコレクションには、著名なAPIユーザーが作成したアーティストプリセットが収録されています。アーティストプリセットは、内部ファクトリーバンクにあり、ホストアプリケーションのプリセットメニューを介してアクセスすることができます。それらは、Apolloのコンソールアプリケーション内でも使用できるようにアーティストプリセットもUADインストーラーによってディスクにコピーされます。プリセットは、UADツールバーの“Settings”メニューを使用してロードすることが可能です。(UADシステムマニュアル7章の“UADパワードプラグインを使用する”を参照してください)
- API 500シリーズのレイテンシー** これらのプラグインは、サウンドのクオリティを上げるために内部リサンプリングを行っています。これにより他のUADプラグインよりわずかに大きなレイテンシーが発生する場合があります。詳細については、「アップ・サンプリングしたプラグインを補正する」を参照して下さい。

API 550Aのコントロール

バンドコントロール 3つのEQバンド(HF/MF/LF)は、デュアル・コンセントリックスイッチによってコントロールされます。内側のノブは、周波数をコントロールし、外側のノブは、バンドのゲインをコントロールします。これらのコントロールで使用可能な値は以下の表.7に表します。

表.7 API 550A 周波数とゲインの値

| バンド | 周波数の値 | ゲインの値 |
|------------|--|-------|
| 高域 (HF) | 5, 7, 10 , 12.5, 15 (kHz) | 0 |
| | | 2 |
| 中域 (MF) | 0.4, 0.8, 1.5 , 3, 5 (kHz) | 4 |
| | | 6 |
| | | 9 |
| 低域 (LF) | 50, 100, 200 , 300, 400 (Hz) | 12 |
| | | (±dB) |

デフォルトの値は**太字**で表示しています



周波数 (Frequency)

フィルターがピークモードの時、中心周波数を決定し、シェルフモードの時は、カットオフ周波数を決定します。バンド用の周波数は以下の4つの方法のいずれかによって設定することができます。:

1. 望ましい値に内側のノブをドラッグする
2. 内側のノブ上にカーソルを置き、マウスのスクロールホイールを使用する
3. 設定したい周波数値のラベルを直接クリックする
4. バンドラベル(HF/MF/LF)、または単位ラベル(kHz/Hz)の使用可能な値を順番にクリック

ゲイン (Gain)

各バンドのゲインは、以下の3つの方法のいずれかを使用して設定することができます。

1. 望ましい値に外側のノブのハンドルをドラッグする
2. “+”または“-” テキストラベルをクリックして数値を変更する
3. 外側のノブ上にカーソルを置き、マウスのスクロールホイールを使用する
4. 変更したいゲイン値のラベルを直接クリック(この方法は、UADコントロールパネルの設定パネルが“Circular”に設定されている場合のみ有効です)

バンドパスフィルター このスイッチ(“FLTR”)は、シグナル全体に50Hz～15kHzのバンドパスフィルターを適用します。



**ベル/シェルフ
スイッチ**



HFとLFバンドは通常ベル・モードです。ベル/シェルフボタンが有効(ボタンが押し込まれている状態)担っている時にバンドはシェルビングモードに切り替わります。

LF シェルフ

LFシェルフボタンを有効にすると低周波数帯域はシェルビングモードに切り替わります。

HF シェルフ

HFシェルフボタンを有効にすると高周波数帯域はシェルビングモードに切り替わります。

アウトプット

プラグインの出力を-24 dB～+12dBの間で調整します。

ヒント: テキストラベル(アウトプットレベル)をクリックすると、両方のチャンネルの値を0にすることが可能です。



EQ イン



このスイッチを使用して3バンドフィルターとバンドパスフィルターをオン/オフします。

すべてのフィルターは、スイッチが押し込まれている状態でアクティブになり、“IN”LEDが点灯します。

オフにした場合、フィルターはバイパスされますが、他のハードウェアサーキットはモデリングされたままです。

パワー

押し込まれた状態で、LEDが点灯しているとプラグインがアクティブになっています。このスイッチがオフのときは、プロセッシングも無効になるので、DSP負荷も下がります。(UAD-2ロードロックがオフ時のみ)



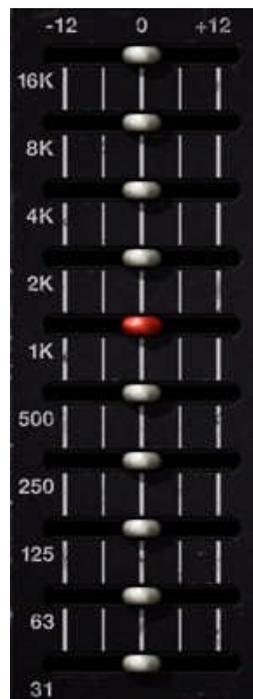
API 560コントロール

注:オリジナルのハードウェアと同様に、シグナルは、すべてのゲインスライダーが0dBに設定されている場合でも1~1.5dBブーストされています。

ゲインスライダー 各10スライダーは、1つの周波数帯のゲインをコントロールします。各バンドは±12dBまで周波数をブースト/カットして調整することができます。使用可能な帯域を以下の表8に表します。

表 8. API 560 周波数

| |
|--------|
| 16 kHz |
| 8 kHz |
| 4 kHz |
| 2 kHz |
| 1 kHz |
| 500 Hz |
| 250 Hz |
| 125 Hz |
| 63 Hz |
| 31 Hz |



ヒント: 0dBの位置にスライダーを戻すには、周波数のテキストラベルをクリックします。すべてのスライダーをリセットするにはスライダーの上の“0”をクリックします。

アウトプット



プラグインの出力を-24 dB~+12dBの間で調整します。

ヒント: テキストラベル(アウトプットレベル)をクリックすると、両方のチャンネルの値を0にすることが可能です。

EQ イン

EQ、フィルタースライダーをオンにします。押し込まれた状態で“IN”LEDが点灯していると関連付けられているEQバンドがアクティブになります。



オフにした場合、フィルターはバイパスされますが、他のハードウェアサーキットはモデリングされたままです。

パワー



押し込まれた状態で、LEDが点灯しているとプラグインがアクティブになっています。このスイッチがオフのときは、プロセッシングは無効になっています。

歴史的背景

API (Automated Processes Inc.)は、Saul WalkerとLou Lindauerによって1968年に設立されました。APIは、モジュラー式アプローチと、2520アンプの機材製造によって広く知られています。ラジカルなEQカーブを使用するときでも2520で可能にする驚異的なヘッドルームは一貫したアナログのパフォーマンスを提供します。APIはまたたく間にラジオやテレビネットワークや知名度の高いステーションの主なオーディオ放送コンソールのメーカーとなりました。まもなく大小を問わずレコーディングスタジオでもAPIを使用し始めました。APIのブランドと優れたオーディオデザインへの取り組みは今日でも評価されています。

550Aは、同社が1971年に製造を開始したAPIのコンソールの標準的なチャンネルモジュールEQになりました。業界は急速に550Aの音質を受け入れ、Frank DeMedioや他の多くのエンジニア達が自分のカスタムコンソールへの導入を始めました。これらのコンソールの多くは、今日でも使用されています。40年後の現在でも550Aは、他のEQが測定するスタンダードのままです。そしてそれは何十年の間、レコード産業で主役を演じていました。売約済みのすべてのユニットとこのEQの人気による需要でAPIは2004年について生産を再開しました。



API 500 Series EQ Collection オリジナルハードウェア